

5-1 葛温泉と湯道の石仏

高瀬渓谷にダムができる前、そこには里から葛温泉、北アルプス槍ヶ岳へと連なる道が続いていました。

里から葛温泉へ向かうかつての道は「湯道」と呼ばれ、湯治のために多くの人を通ったといわれています。さらに、その道沿いには点々と石仏がありました。これらの歴史を紐解いてみます。



写真 5.1 大町エネルギー博物館に遷座された石仏

■ 歴史のある湯治場 葛温泉

高瀬渓谷にある葛温泉（大町ダムより車で10分弱）は、少なくとも18世紀末の安永年間には開湯していたという記録が残る古い温泉で、湯治場として庶民に利用されていました。現在は温泉宿が3軒あります。

里から葛温泉へ向かう道は「湯道」と呼ばれ、当時から人の行き来がありました。大町市街地からのルートのほか、清水集落からルートなど複数のルートが存在したとされています。

■ 湯道の石仏

湯道沿いには、道中の安全を祈願する石仏や、湯治による病の完治を願い、神仏に祈願するための観音堂や薬師堂等がありました。

電源開発やダム整備、県道整備等の整備により、その石造物の一部は大町エネルギー博物館や葛温泉の御堂等に移設されています。



この図は、国土地理院発行の5万分の1旧版地図（槍ヶ岳、大町、信濃池田（昭和7～8年発行））を使用したものである。



写真 5.2 葛温泉にある薬師堂（左上）と観音堂（右上）
湯道から移設された石仏（下）



図 5.1 大町市街～葛方面の湯道推定図 (出典:33~35)

■ 湯道をつなぐ橋

里から葛温泉へ向かうには、高瀬川を渡らなければなりません。主要な横断箇所の橋は「定橋(じょうばし)」と呼ばれ、左下図のような「刎橋(はねばし)」という形状でした。

その他は、右下図のような「みのた橋」という丸太を利用した橋で、流れの少ない箇所を選びながら設置されていたようです。



図 5.2 江戸期の橋絵図 (出典:36)

【コラム】

大町ダムエネルギー博物館園地の石仏

湯道の石仏は、高瀬渓谷の電源開発や大町ダム建設時に、湯道とともにダムの底へ沈んでしまうことになりました。そのことに心を痛めた当時の関係者は、湯道の基点であった「馬返し」にあたる、大町エネルギー博物館の園地へ石仏 27 体を移設・遷座しました。

馬返しから葛温泉までの湯道は約二里、その間の各所に、病気の完治を願う人々による石仏がおかれました。

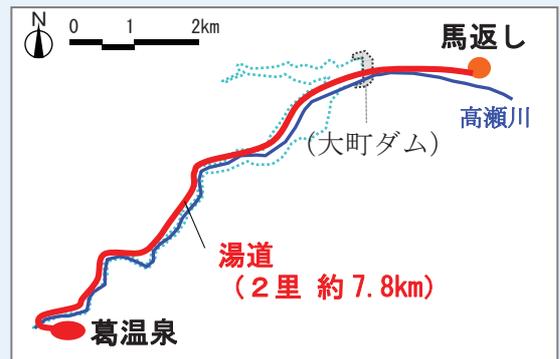


図 5.3 当時の湯道推定図 (出典:37)

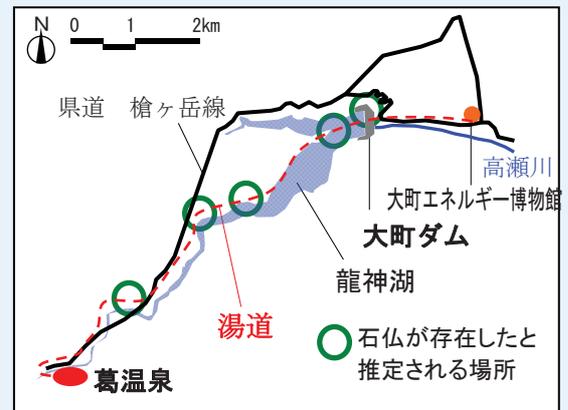


図 5.4 現在の葛温泉へ至るルート図 (出典:37)



如意輪観音

車輪がどこまでも転がるように、意の如く現われ、生きているもののすべての苦しみを取り除き、ご利益を与えるという菩薩とされています。



聖観音

ふつつ観世音菩薩といひ、一切の衆生(生きているもののすべて)を救う観音様です。



馬頭観世音

馬頭を戴き、一切の魔障を敗漬して悲願を果たしてくれる観音様です。



十一面観音

十一の面をもつ観音様です。除病、滅罪、求福を祈るものです。

※解説は現地案内板より要約